

2026 年度安芸高田市総合計画審議会議事録

2026 年度安芸高田市総合計画審議会	
日時	2026 年 8 月 6 日(木) 15 時 00 分～16 時 43 分
場所	安芸高田市民文化センター(クリスタルアージュ 4 階 402 室)
出席者	別紙委員一覧参照
資料	【資料 1】 第 2 次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括 【資料 2】 第 3 次安芸高田市総合計画シンポジウム結果概要 【資料 3】 リーディングプロジェクトの進捗状況 【資料 4】 第 3 次安芸高田市総合計画に位置付ける目標指標のモニタリング 【資料 5】 総合計画に係る認知度調査結果

発言者	議事内容
【報告事項①】 第 2 次安芸高田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の総括【資料 1】	
【報告事項②】 第 3 次安芸高田市総合計画シンポジウム結果概要【資料 2】	
会長	資料 1 の地域経済循環率について、2020 年の 74.7%から 2022 年の 86.8%まで大きく改善している。この要因は何か。
事務局	新規に開業した「道の駅三矢の里あきたかた」の効果が要因の一つとして含まれていると推測している。
会長	資料 1 の 3 ページで、個別指標 63 件のうち未達成が 23 指標と一定数見受けられる。未達成指標にはどのような特徴があるか。
事務局	個別の指標名までは即答できないが、全体傾向として若者の多くが安芸高田市外へ転出している状況があり、これに関連する取組の指標が未達成となっているものと推測される。
A 委員	資料 2 における紅花の取組とは、具体的にどのようなものか。
事務局	吉田町印内地区における取組である。同地区では、過去の歴史書に紅花栽培に関する記載が残されており、これを再興したい地域の声と、これに協力したい地域おこし協力隊の応募が合致して開始されたものである。栽培した紅花については加工品化しており、今後は吉田町のみならず市内全域への展開を目指している。
B 委員	シンポジウムには市外からの参加者も一定数あるが、より多くの市外の方に参加していただきたいと考える。認知経路として口コミが最多となっているようだが、費用をかけずに新聞記事として掲載を依頼する、ラジオ番組に部長や市長が出演するなど、新たな取組が必要ではないか。年配者にとってはLINEやSNSでの発信は理解が難しく、ラジオや新聞といった媒体での発信を工夫していただきたい。
事務局	ご指摘のとおりと考える。中国新聞への情報提供は行っている。市内向け(インナープロモーション)に加え、市外向けプロモーションについても、ご指摘を踏まえ本年度のシンポジウムに向け改善を図りたい。
会長	市外の方を呼び込むとした場合、開催場所はどこが適当と考えるか。
事務局	中央が最も集まりやすいと事務局では想定していたが、神楽門前湯治村や神楽ドーム等での開催も検討の余地があると考え。場所・時期の設定と併せ、市外向けプロモーションを含めた仕掛けを検討していきたい。
C 委員	シンポジウム全体の感想として、ネガティブな評価や改善点にはどのようなご意見があったか。
事務局	資料 2 の 12 ページ「内容構成に関する指摘(7 件)」がこれに該当する。「第 3 次総合計画

発言者	議事内容
	の内容についての説明があると思っていたが、その内容がなく残念であった」「メニューが多く、個々の内容が表面的であった」「全体の時間が長い」等のご意見をいただいている。
【報告事項③】リーディングプロジェクトの進捗状況【資料３】	
【報告事項④】第３次安芸高田市総合計画に位置付ける目標指標のモニタリング【資料４】	
D 委員	資料３の１９ページ、基本目標Ⅰ 公共施設マネジメントの民間提案制度において、具体的にどのような案件が上がっているか。 基本目標Ⅲにおいて、未来チャレンジ探究学習とあるが今年度の具体的内容はどのようなものか。
事務局	基本目標１については、旧来原小学校を活用した自動車博物館の誘致、土師ダムのごごえ公園周辺の市有地を民間に売却した上での有料駐車場の新設、現地決済型ふるさと納税の取組等が具体案件として挙げられる。 基本目標３については、各学校間の情報共有を目的として、市内小中学校合同による「未来チャレンジ探究学習」成果発表会を実施することとした。
会長	本審議会に初めてご参加いただく委員もおられるため、「関係人口案内所」及び「お試しX」の定義・背景について、改めて説明願いたい。
事務局	「関係人口案内所」については、広島市から本市への通勤者が増加傾向にあることがデータで確認されており、通勤者へのアンケート調査の結果、休日にも本市を訪れていること、移住定住意向も一定割合あることが判明した。これを踏まえ、道の駅を拠点として、来訪者に本市を深く知っていただき、ひいては移住定住へと導く拠点を整備するものである。 「お試しX」については、総合計画策定過程において吉田高等学校及び向原高等学校の生徒から提案されたアイデアである。単なる「お試し移住」に留まらず、「お試しで教育」を受ける、「お試しで働く」等、多様な「お試し」を包含する意味でX(変数)と表現している。
C 委員	資料３の１９ページ、基本目標４における「先行して取り組む地域振興組織の事例を横展開する」との記載について、先行事例としてどのようなものがあるか。
事務局	高宮町船木振興会における「ゆめカフェ」の取組が代表例である。新聞にも大きく報道され、地域内外から会場に収まりきれないほどの参加があり、第２弾・第３弾へと発展する動きがある。 (補足)本件における「先行」とは、他自治体の事例ではなく、市内の振興会内において、県及び市が現在推進している対話ワークショップに先行して取り組んでいる事例を指す。集落支援員が月１回集まり情報交換を行うことで、他の地域振興組織へ横展開していくイメージである。
E 委員	地域学校協働活動コーディネーターとしての集落支援員の手配は、どのように進んでいるか。学校運営協議会との調整状況を伺いたい。
事務局	集落支援員は多岐にわたる業務を担っている。地域振興会の支援に加え、学校運営協議会(現在の事務局は教頭)にも参画し、地域と学校を結ぶパイプ役として、学校側では把握が難しい地域情報や人材の紹介等を行っている。
会長	集落支援員と行政との関わりはどのようになっているか。また、所管課はどこか。
事務局	所管は政策企画課である。集落支援員は各支所に１名ずつ配置しており、政策企画課において月１回、集落支援員６名が集まる会議を開催し、取組状況の報告及び情報共有、見解交換を行っている。
C 委員	資料３・１９ページの総括を確認すると、「検討中」「立ち上げ中」の取組が多数見受けら

発言者	議事内容
	れる。目標年度である 2028 年度に向け、進捗の見通しに問題はないか。
事務局	ご指摘のとおり、本格的な始動は本年 4 月からである。今後は各課へのヒアリングを通じて着実に進捗を測り、目標達成に向け進めていく。 (補足) 本報告書の作成に当たり、各課への再ヒアリングを実施済みである。スケジュールに遅れが生じているものについては、担当係長及び課長に対し急ぐよう指摘している。年 1 回のみならず四半期ごとに状況を確認する体制を整えており、計画年度内に実施できるよう進めていく。
会長	資料 4 について、表中に記載されている「2025」の数値の基準時点が分かりにくい。
事務局	計画策定時の値は 2024 年度がベースとなっているが、一部 2025 年度の数値が混在している。隣列の「2025」欄は、直近(2026 年度)に実施したアンケート結果を示している。表記が分かりにくく、失礼しました。
会長	モニタリング指標のうち達成割合が 100%を超えるものもあるが、数値変動の要因分析は実施しているか。
事務局	総合計画策定後の取組推進は本年 4 月から本格化したところであり、要因の深掘り・考察は本格化していない。本格的な要因分析は来年度から実施予定である。 ただし、一部読み取れる例として、「安芸高田市を住みやすいと思う外国人の割合」については、計画策定時 75.8%から 79.3%へ上昇している。これは地域おこし協力隊として配置しているベトナム人職員の取組(技能実習生等への対応)が着実に成果として現れているものと考えられる。
会長	数値だけを追うのではなく、伸びた要因を分析した上で、効果ある取組をフォローアップし手厚く展開していくことにより、更なる向上が期待できる。要因分析に基づくフォローアップを検討されたい。
副会長	本計画は「人口減少対策及び地方創生の取組推進」を目標として策定されているが、そのモニタリング指標として「関係人口」に加え、「活躍人口」の概念を導入してはどうか。 中国経済連合会が提唱する概念であり、女性・高齢者・外国人等が実際にどの程度活躍しているかという質的側面を捉えるものである。企業における「活躍人材」の考え方(期待する成果に対して社員がどの程度発揮しているかを測る)と同様、本市の総合戦略に掲げた期待値に基づき、現在誰がどのように活躍しているかを評価する視点として、モニタリングへ活用いただけないか。
会長	地域の年度祭り等の機会を捉え、活躍人口に該当する方々にご参加いただき、プレゼンテーションの機会を設けることも検討していただきたい。
【報告事項⑤】 総合計画に係る認知度調査結果【資料 5】	
会長	対応方針として「地域振興組織への市民参加割合を高める」との方向性が示されているが、いきなり地域振興組織に加入することはハードルが高いと考える。まずお祭り等のイベント参加を入口とし、活動の面白さを感じてもらった上で組織への参加へと繋げるといった段階的なアプローチが望ましいのではないか。
事務局	各振興会がお祭り等の様々な機会を通じて活動を発信し、まずは顔を出していただくことから関心を深めていただきたい。そこから振興会活動への参画へと繋げていくよう取り組みたい。
C 委員	シンポジウムのチラシに「みんなと語る日」と記載されているが、実態としては発表者が発表するのみで、みんなで語り合う様子が見受けられない。シンポジウムの目的はどこにあるのか。
事務局	参加型シンポジウムを志向しており、発表への賛同を丸バツ方式で示していただく等、参加者にも関わっていただく形で開催している。目的は、地域おこし協力隊・集落支援員・

発言者	議事内容
	商工会青年部等、地域で活動されている方々の状況を市民の皆様に知っていただき、「自分にもこのような活動ができるのではないか」と感じていただくきっかけづくりである。今回のアンケートにおいて「まちづくりシンポジウム」との設問表現を用いたため認知率が低く出た可能性があり、「若者の声を聞く振興集会」等の表現であれば、より認知されていた可能性がある。今後もこの方向性で進めていきたい。
【閉会】	
事務局	次回審議会は来年の同時期に実施予定である。日程が近づき次第、改めて案内する。
会長	以上をもって本日の審議会を閉会する。

以上